

南 飛 驒 防 災 結 塾 瓦 版



下呂市防災士会基本理念

- 1.我々は、自助・共助協働を自ら実践し、地域の減災と防災力向上に貢献する。
- 1.我々は、防災士として、常に防災知識と技術の習得に研鑽する。
- 1.我々は、下呂市の防災文化の構築に努め、後世に継承する。

下呂市防災士会 会員数が167名に、うち女性防災士は10名！（平成29年3月1日現在）

平成26年7月に70名で発足した本会が、所属する防災士が167名になりました。自費負担の防災士、特別申請防災士に加え平成24年度から進められている市助成事業で誕生した防災士の総数です。発足当時よりの旧町村の増員数は、小坂13名・萩原24名・馬瀬9名・下呂15名・金山28名・職員部会が10名となります。今後は防災士不在地区の解消もさることながら、各々の防災士がスキルの向上に努める事と、女性防災士の増員、防災士を取り巻く地域の理解と協力が不可欠と考えられます。

【北支部】 62名	〈小坂 17名(0名) 萩原35名(3名) 馬瀬10名(0名)〉	(・名)は女性防災士数
【中支部】 33名(0名)	【南支部】 47名(7名)	【職員部会】 25名(3名) 合計 167名(13名)

防災士6名が、応急手当普及員 講習会を受講

平成29年2月に消防本部にて、防災士を対象に応急手当普及員の養成講座が行われました。この養成講座は平成26年度から始められて、これまでに女性消防団員・防災士など合わせて24名の応急手当普及員が誕生しております。主な内訳は防災士9名(うち女性3名)女性消防団員10名、その他5名となった。消防本部では今後も本講座を継続して、市民に救急救命を伝えられる人材を増やして行く方針との事です。下呂市内には、公設・民設合わせて150台近くのAEDが設置されていますが、一人でも多くの市民が救命処置を行なえるようになり、身近で起こった突然の死を防ぐことが望まれます。



心臓の構造など基礎知識から学びます。



元消防士(救急救命士) 応急手当指導員の齋藤真依子さんから実技の指導を受けます。



テキスト片手に指導を実践します。 小児・幼児・乳児の応急手当も学びます。



無事に修了証を頂きました。

【応急手当普及員】 消防本部が行う講習(24時間)を修了し消防長が認定した公的資格者で、日赤救急指導員に同等。 応急手当普及員は、下記の救命講習会を開催し、一定のカリキュラムを指導して受講者に対し「普通救命講習修了証」「救命入門」に参加証を交付出来ます。

- ・普通救命講習Ⅰ(成人を対象にした心肺蘇生法、AEDの取り扱い、異物除去、止血法)
- ・普通救命講習Ⅲ(小児、乳児、新生児を対象にした心肺蘇生、AEDの取り扱い、異物除去、止血法)
- ・普通救命講習Ⅱ(心肺停止者に対応する頻度が想定される者。Ⅰのカリキュラムに実技、筆記効果測定)

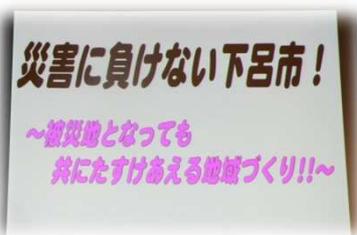
市社会福祉協議会が、災害ボランティアセンターの設置・運営訓練

【災害ボランティアセンター（ボラセン）とは】

災害発生時に県内外から訪れるボランティアの活動を効率よく推進するための組織で、大規模災害のあった地域の殆どに開設されています。下呂市の防災計画では、社協が設置します。

平成28年度の「災害ボランティアセンター」の設置・運営訓練が、市内各地域で行われました。

- ・ 金山地域（H28.11/20 金山市民センター）
- ・ 萩原・馬瀬地域（H28.12/4 羽根中央公民館）
- ・ 下呂地域（H29.2/19 交流会館マルチスタジオ）
- ・ 小坂地域（H29.2/21 小坂ふれあいセンター）



大規模災害が発生すると、県内外から支援活動にボランティアが数多く駆けつけます。これに対して素早く円滑に対応できるように社協が行う訓練です。登録ボランティア、自治会役員、民生委員、災害ボランティア連絡会、防災士など多数が、ボランティア役として駆けつけ運営訓練を行いました。ボランティアは個人として被災地に来所した人達との想定で始まりました。地域ごとにやや違いがあり、その工夫を反映してマニュアルの充実を図るとのことです。



馬瀬・萩原会場

社協職員からボラセンの必要性、ボランティアの心構えなどの説明を受けます。

災害ボランティアの心構え・注意事項（抜粋）

- ・ ボランティア保険の加入が必須です。
- ・ 被災者が主体であり、ボランティアはお手伝い。
- ・ 無償が原則、被災者に負担を掛けない。
- ・ 危険な行動は慎んで、事故に注意する。
- ・ 知り得た情報をSNSなどに書き込まない。



ボランティア保険未加入者には、加入斡旋をします。

グルーピング
グループリーダーを選出して、活動内容の詳細説明を受ける。



下呂会場

受付手続き
個人・団体名簿の記入、名札に氏名を記入する。



マッチング（活動の選択）
被災者の希望と、ボランティアの活動内容の調整、作業グループの人数などの調整。



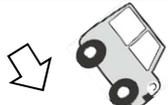
下呂会場

支援現場で被災者から打ち合わせ以外の要望があった場合は、ボラセンへ連絡して協議する。

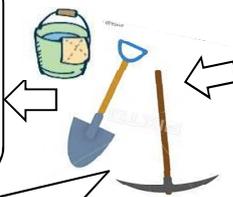
支援活動



金山会場



支援地への移動
案内図により移動。
（ボラセンのスタッフが案内して、現地に駐留する場合もある）



資機材の借受
活動内容に必要な道具などを調達します。（自己で用意もあり）



小坂会場

作業現場での留意点など、作業終了後の説明を受ける。

活動終了
借り受けた資機材を返す。

活動報告（報告書作成）
リーダーがメンバーから意見を聞き取りまとめて報告する。依頼内容が完了か未完了か。新たなニーズの伝達など。

下呂市金山日赤奉仕団が日赤岐阜支部第1回救急法競技会で上位入賞！

平成28年2月28日に岐阜市のヒマラヤアリーナで県下43チームが参加して行われました。競技は三角巾を使った応急手当と、AEDを用いた心肺蘇生法の2部門で行われ、応急手当部門は2位と健闘して総合で4位に入賞しました。前年の11月より河尻正敏防災士や県支部から指導を受け、団員1丸となって練習に取り組み、その成果が見事花咲きました。競技会は隔年で行われ次回は平成30年2月25日に行われます。是非とも総合優勝を！と期待されます。



応急手当競技は応援団も大盛り上がり。



画像出典
日赤岐阜支部HP

頭部、腕、足の3種類あるクジを引いて出題された手当(三角巾で包帯)を傷病者に行い、速さと正確さを競います。

赤十字奉仕団とは？

赤十字の使命とする人道的な活動をしようとする人々が集まって結成された、ボランティア組織であり県内すべての市町村に結成されており、1万人以上が活動しています。

金山日赤奉仕団は、昭和57年旧金山町時代に結成されて団員数は144名を数えます。活動範囲は市内全域に及び市総合防災訓練などで非常食の炊き出し指導や、小学生の「夏休み親子防災宿泊体験」では子供達と防災について活動をしています。また、赤十字社が行う献血事業にも市内全域に出かけて年間十数回補助などを行っています。

毎年県内や、近隣県の防災研修施設などへ出かけ視察を行い防災への知識を深めています。



画像出典
日赤岐阜支部HP

傷病者発見から救急隊へ引き継ぐまでの一次救命処置の技術を競います。正確さと速さが求められます。

下呂市防災士会最高齢の 長尾善美さん(79才)が、防災カルタを自作！

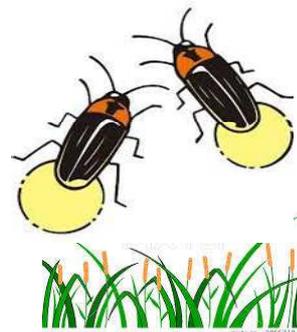


平成27年に防災リーダー養成講座(高山会場)を受講し、地元中宮自主防災会で活動されています。高齢者向けに紙芝居を自作し、上演数は16回とお聞きしました。「しのびよる老いを素直に認めなさい、友人・知人・近隣との絆の大切さ」を説いた筋書は、老いを迎えた人達に共感と呼んでいるようです。防災会の仲間から「ぜひ防災紙芝居を作って」と依頼されていましたが、思い付いたのが防災カルタ。葉書よりやや小さめで、文字札は5・7・5で口調よく読み上げられ、絵札共全て手書きの力作です。

小学生でも理解出来るように、表現は元教職にあった経験を活かして随所にその工夫が見られます。今も金山小学校で放課後の学童保育を務められ、児童達とカルタ遊びを行ったら子供たちは大喜びで遊びに興じたとのこと。時折りカルタの内容をさりげなく解説して、子供達への防災教育は次世代への防災感覚の育成に期待が持たれます。(お問い合わせは090-2578-1601 金子まで)

おらんとこの自主防災（クリエイティブ～すがたほたる）

『クリエイティブ～すがたほたる』は、「この街を少しでも元気に、住んでいて良かったと思える街づくり」をスローガンに金山町菅田地区で活動しているグループです。現在メンバーは27名で活動しています。年に2回菅田地区の話題を紹介する広報誌を発行し各戸に配布しています。また、ホタルの保護、新春餅つき大会、菅田小学校PTAの環境整備、嶽見桜周辺の整備活動に対し協力を行っています。



菅田地区400世帯の安心・安全を！

防災活動についてですが、会則に「地域住民の安心、安全に関すること」を実施事業と定めており、このことに関して地域に役立つとの思いで活動しています。会員27名の内防災士は今年度に1名増えて、10名になりました。そのうち女性防災士が3名在籍しています。各々の防災士は、地元地区での防災活動はもちろんのこと、会として菅田地区全域の安心・安全のための活動を行っています。これまでに実施した防災事業は、「わが家の防災表」を作成して全戸に配布、小学校や自治会、高齢者対象の防災教室です。また、防災士のいない区へ出向いて災害図上訓練(DIG)の指導を行いました。



高齢者防災教室（菅田9区）



親子防災教室（菅田小学校）

防災士どうしの連絡や情報をより密にしていくために、「防災部会」を設けて、継続的に地域住民の防災意識向上を目的とした事業を実施していく予定です。まずは、会員のレベルアップを図るために、平成28年9月に普通救命講習を実施しました。平成29年2月には女性防災士2名が下呂市消防本部の応急手当指導員講座を受講し資格を取得しました。今後は、県広域防災センターなどの防災施設の視察研修や、避難所運営訓練(HUG)などを実施したく考えています。

（編集後記）隔月10日の発行であるが、10日が過ぎると気休めする間もなく次号の編集に取りかかります。掲載する記事がそれ程あるわけでもなく、四六時中ネタ探しに奔走しています。一部地域の記事に偏ると他地域の読者離れに繋がるし…、その上何人の方がパソコンを開いて下呂市のホームページにアクセスして、どれだけの人が本誌にたどり着き閲覧してくれるのかなア…などと考えると、「えらいこと始めたな-」と弱気な思いが頭をよぎります。が、しかし、編集の終盤は校正に会長、副会長、支部役員、事務局に、2回～3回隅々まで精読し校正にご苦勞を掛けておるので愚痴はいかん、老体にムチ打って頑張らねば！ 下呂市全域の防災に係わる者(組織)同士の連帯意識の向上を目指して始めたことであるのだ。 **みなさん防災に係わる情報の提供を、お願いしまーす。**

